

香取遺産

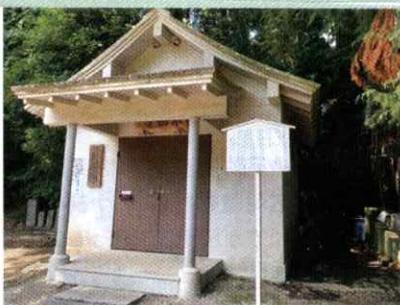
清水不動尊
佐原イ1299-2

vol.206

▲清水不動尊

▲お堂内の不動尊像

◀岩肌から清水がにじみ出ています



佐原野球場から南に500mほど行くと、不動明王が彫られた道標と「清水不動尊」の扁額が掲げられた鳥居があります。鳥居をくぐって160m坂道を下つていぐと、小さなお堂が静かな谷間に佇んでいます。

お堂内には、岩肌を掘りくぼめて安置された石造りの不動尊が祭られており、法界寺の奥の院とされています。法界寺は天正11(1583)年に僧天誉上人の開基とされる浄土宗の寺院です。お堂に掲げられた墨痕鮮やかな「不動尊」の扁額は、東久世通禧のものです。

お堂脇の岩肌から清水が湧き出ており、この湧き水は環境省の「千葉県の代表的な湧水」に記載されているものです。

その来歴をご住職にうかがうと、石橋山の合戦に敗れた源頼朝の家臣、清水某が鎌倉へ向かう途中に、この辺りで鳥が木立の中に降りて行くのが見え、道をそれでたどっていくと、この湧き水があつたということです。

湧き水を発見した清水某にちなんで「清水不動尊」と呼ばれるようになつたとのことです。また、矢傷を負った清水某がこの湧き水で傷を洗い、治癒したことから「矢苦の不動尊」とも呼ばれるようになりました。清水某がこの湧き水で傷を洗い、治癒したことになり、子育て不動尊として信仰を集めようになりました。この不動尊の湧き水を飲むと母乳がよくなる難病が治るとされています。毎月28日の午前中に縁日が開かれています。

夏の暑い日に訪れた時も、清らかな湧き水は冷たく、心まで洗い淨めてくれるようです。